

第5学年 道徳学習指導案略案

日時 2016年2月17日(金) 第5限

場所

5年教室

指導者

1 題材名 「権利の熱気球」

2 指導について

クラス全体の雰囲気としては穏やかであるが、その一見穏やかな雰囲気の中には、自分の言いたいことや意見が言えずに、自分の気持ちをうまく相手に伝えられず、自分の気持ちに自信を持って行動できていないことが多い。前時では、〇〇さんの聞き取り学習を受けて、自分を好きになる、自分を大切にすることについて話し合った。本時では、〇〇さんから学んだ、「本音を言い合う」ために、下記の活動を行う。

本単元では、地上高く漂う熱気球に乗っていてだんだん高度が下がってくるなかで、助かるためには持っている権利を捨てていかなければならない場面を設定している。権利を荷物と考えて、ひとつひとつの権利を捨てていき、どうしてそれを捨てたのか考える。また、これ以上捨てられない、捨てたくないところまで選び、なぜその権利を残すのかを考え発表し合うことにより、友達との考え方の違いを認め、違っていてもいいということを確認し、本音で自分の意見を伝え合うことができるようにしたい。

3 本時の目標 人と違って、自分の思いを、ありのまま友だちに伝えることができる。

4 指導過程

過程	時間	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
つかむ・見通す	10	<p>本時のめあてを確認する。</p> <p>家庭学習で調べてきたことばの意味の意味を発表し合う。</p>	<p>めあて</p> <p>自分の思いを、ありのまま伝え合おう。</p> <p>「今日は、人と違って、自分の思いを、ありのまま伝え合います。今日は、本音を言い合います。」</p> <p>T「今日は、権利の熱気球で学習をします。」</p> <p>T「昨日の宿題を覚えてますか？」</p> <p>T「人権とは何ですか。」</p> <p>・人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持っている権利。</p>	<p>めあてを繰り返し読んで、しっかり確認する。</p> <p>家庭学習で調べてきた「権利」「人権」「熱気球」の意味を自分の言葉で発表させる。</p> <p>複数人に当てて確認する。</p>

		<p>家庭学習で調べてきたことばの意味の意味を発表し合う。</p> <p>T「権利とは何ですか。」 ・ある物事を自分の意志によって自由に行うことができること</p> <p>T「例えば、どんな時に権利って使う？」 ・休み時間遊ぶ権利 ・給食でおかわりする権利 ・しんどい時に休む権利</p> <p>T「熱気球とは何ですか？」 ・下からバーナーなどで熱した空気を送り、その浮く力で空中に飛行する気球。</p>	<p>「ぼくらの権利って言うことあるよね？」など、意見が言いやすい問いかけをする。</p> <p>カラー印刷した熱気球の写真を貼る。 熱気球は「熱い空気は冷たい空気よりも軽い」という原理に基づくもの</p>
ひろげろ	10	<p>「権利の熱気球」のやり方、権利と荷物についてきちんと理解させる。</p> <p>権利のカードと、ワークシートを配布する。</p> <p>一つ目の権利を捨てる。</p> <p>T「あなたは10個の荷物とともに熱気球に乗っています。」</p> <p>T「荷物が重いので、だんだん高度が下がってきました。10個の荷物とは、権利というものでした。命が助かるためには、その権利という荷物を捨てなくてはなりません。」</p> <p>「その権利という荷物を配りません。まだ切りません。どんなものかよく考えましょう。」</p> <p>「自分にとって一番必要でない権利を1つ捨てましょう。」</p> <p>T「ワークシートの1番下の右、10のところに、はさみで切って貼ります。」</p>	<p>机をコの字型にする。</p> <p>誰に話をするのか、聞き方名人、話し方名人を意識させ、自分たちで進めさせる。</p> <p>のりとはさみを準備させる。</p> <p>自分の考えに基づいて捨てる権利を考える。</p> <p>権利カード(A4サイズ)を黒板に貼れるように、準備をしておく。</p>

<p>5</p>	<p>何を捨てたか、捨てた理由もしっかり述べさせる。</p> <p>子どもたちが、自分たちで話し合いを進めていく。</p> <p>続いて、一つ捨てさせる。</p> <p>続いて、一つ捨てさせる。</p>	<p>T「では、みんな一つ捨てましたね。何を捨てましたか？」</p> <p>T「私は～を捨てました。理由は～だからです。同じ人はいますか？と聞いて、友だちを当てて、自分たちで進めていきます。」</p> <p>T「同じ人がいなければ、ちがう人は何を捨てましたか？と聞いて、ちがう考えの人を当てて進める。」</p> <p>T「発表した中で、何か分からない権利はありますか？」</p> <p>T「へえ、みんなそれぞれ違うんだね。」</p> <p>T「また高度が下がってきました。もう1つ権利という荷物を捨てましょう。どれにしますか。」</p> <p>T「用紙の1番下の左、9のところに切って貼ります。」</p> <p>T「次に何を捨てましたか？」</p> <p>T「さっきと同じように、何を捨てたか、理由も言って、同じ人の意見を確認して進めていきます。」</p> <p>T「さらに高度が下がってきました。もう1つ権利という荷物を捨てましょう。どれにしますか。」</p> <p>T「用紙の1番下から2番目の右、8のところに切って貼ります。」</p> <p>T「次に何を捨てましたか？」</p> <p>T「友だちの意見を聞いて、何か聞いてみたいことはありませんか？」</p>	<p><u>友だちの意見を否定せず聞くことを伝える。</u></p> <p>9人全員に聞く。<u>同じ権利でも、捨てた理由の違う考えがあることを確認する。</u></p> <p>「誰からでもいいよ」と言って、言う時は立ち、理由を言ったら座らせていく。</p> <p>聞き方名人を意識させる。</p> <p>違うことが、当たり前ということを押さえる。</p> <p>9人全員に聞く。</p> <p>クラスの子がそれぞれ自分の考えをもっていて、自分と違うことを考えているということに気づかせる。</p> <p><u>時間がなさそうであれば一番捨てられない権利に移る。</u></p>
----------	---	--	---

	<p>残りを同じように順番に切って貼っていく。</p> <p>15 一番捨てられない権利について考えさせる。</p> <p>※順番に並べられない、決められない児童が出てきた場合</p>	<p>T「残った7枚を、同じように切って貼っていきます。上に行くほど、捨てられない権利になります。」</p> <p>T「残った権利の中で、あなたにとって一番捨てられない権利は何ですか？」</p> <p>T「私は～が一番捨てられない権利です。理由は～だからです。同じ人はいますか？と聞いて、友だちを当てて、自分たちで進めていきます。」</p> <p>T「同じ人がいなければ、ちがう人は何が一番捨てられないですか？と聞いて、ちがう考えの人を当てて進める。」</p> <p>T「まだ決められていない人は、立ちましよう。」</p> <p>T「何に悩んでいるの？どこで悩んでいるの？」 決められていない児童全員に聞く。</p> <p>T「何か意見ある？伝えたいことはない？」</p> <p>T「全部並べた人は、一番捨てられない権利は何ですか？詳しく理由をみんなに説明しましょう。」</p>	<p><u>残り時間が15～20分程度になったら、こちらに切り替えて進めていく。</u></p> <p>友だちの意見を否定せず聞くことを確認する。</p> <p>1枚選んで、ワークシートの一番上の1に貼らせる。</p> <p>9人全員に発表させる。</p> <p>決められていない人から当てる。 「誰からでもいいから、言っていこう」</p> <p>悩んでいることを話し合う。</p> <p>一番捨てられない権利が出なくても良い。 目的は本音で話し合うことである。</p>
<p>ま と め る</p>	<p>5 ふりかえりをする。</p>	<p>T「これで熱気球の学習は終わりです。ワークシートに、今日の学習で一番心に残ったことを書きましよう。」</p>	<p>人によって考え方がちがうこと、それぞれの考え方があることに気づく児童がいると思われる。</p>

○権利の熱気球カード（10の権利の内容）

イラスト付きのカードを使います。（言葉や内容を少し変えました）

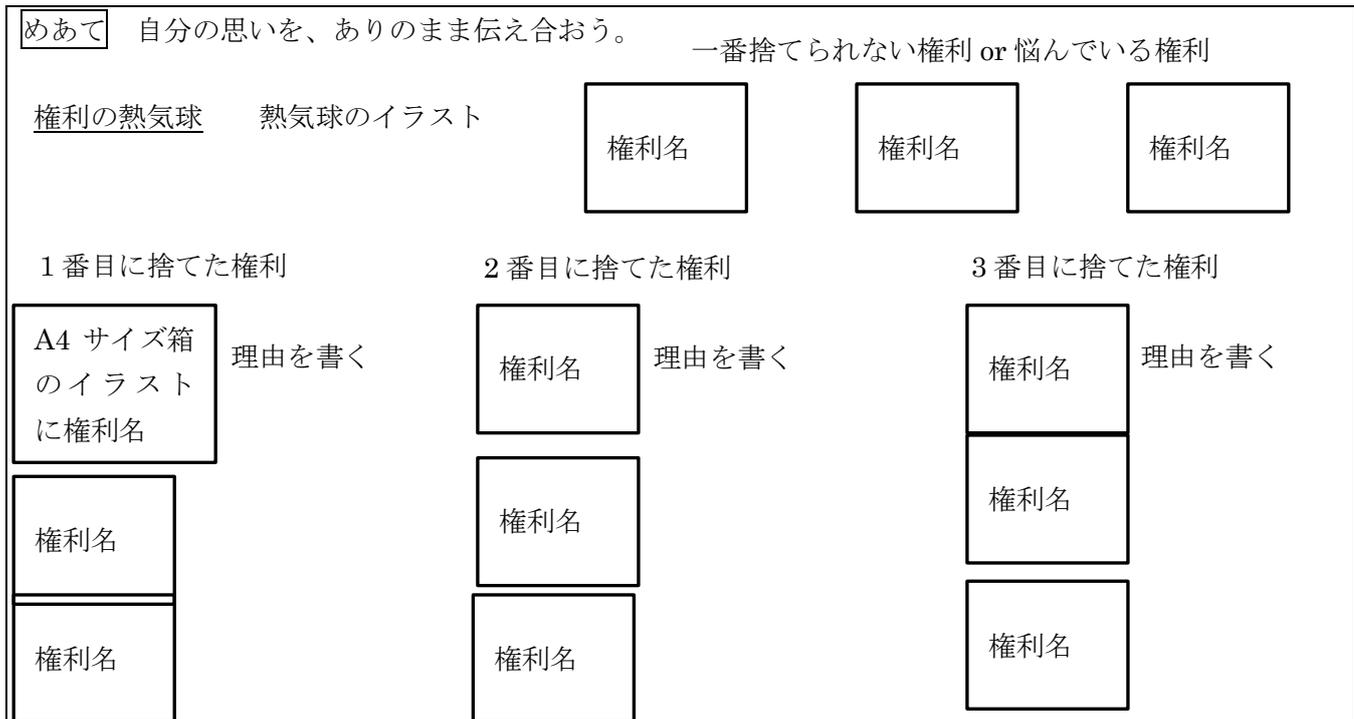
- ア「きれいな空気を吸う権利」
- イ「ねる（休養できる）時間を持つ権利」
- ウ「おこづかいをもらう権利」
- エ「遊ぶ、自由に過ごす権利」
- オ「みんなとちがっていることをみとめられる権利」
- カ「正直な意見を言い、それを聞いてもらう権利」
- キ「いじめやいやがらせを受けない権利」
- ク「自分だけの部屋をもつ権利」
- ケ「毎日、十分な食べ物ときれいな水を得る権利」
- コ「愛し、愛される権利」

【気球について】

バーナーなどで熱した空気を利用する物を熱気球、水素やヘリウムなどを使用する物をガス気球、ガスと熱した空気の両方を利用する物をロジェ気球と呼ぶ。

権利を1つひとつ書く時間を省略するために、荷物風のイラストに権利名を書いた用紙を（10×4）40枚用意しておく。そして、子どもが捨てた権利を貼って、横に理由を書いていく。

5 板書計画



権利の熱気球ワークシート

名前()

1	2
3	4
5	6
7	8
9	10